

「中進国の罟」を乗り越えた？ 韓国の開発体験

早稲田大学
深川由起子

OUTLINE

- はじめに：東アジア経済と「中進国の罠」
- 「中進国の罠」を振り切った？韓国
- 韓国の経済発展評価
- 韓国の開発経験
- 真の「先進国」へ：残る挑戦課題
- 結論に代えて

「中進国の罠」をどう考えるか

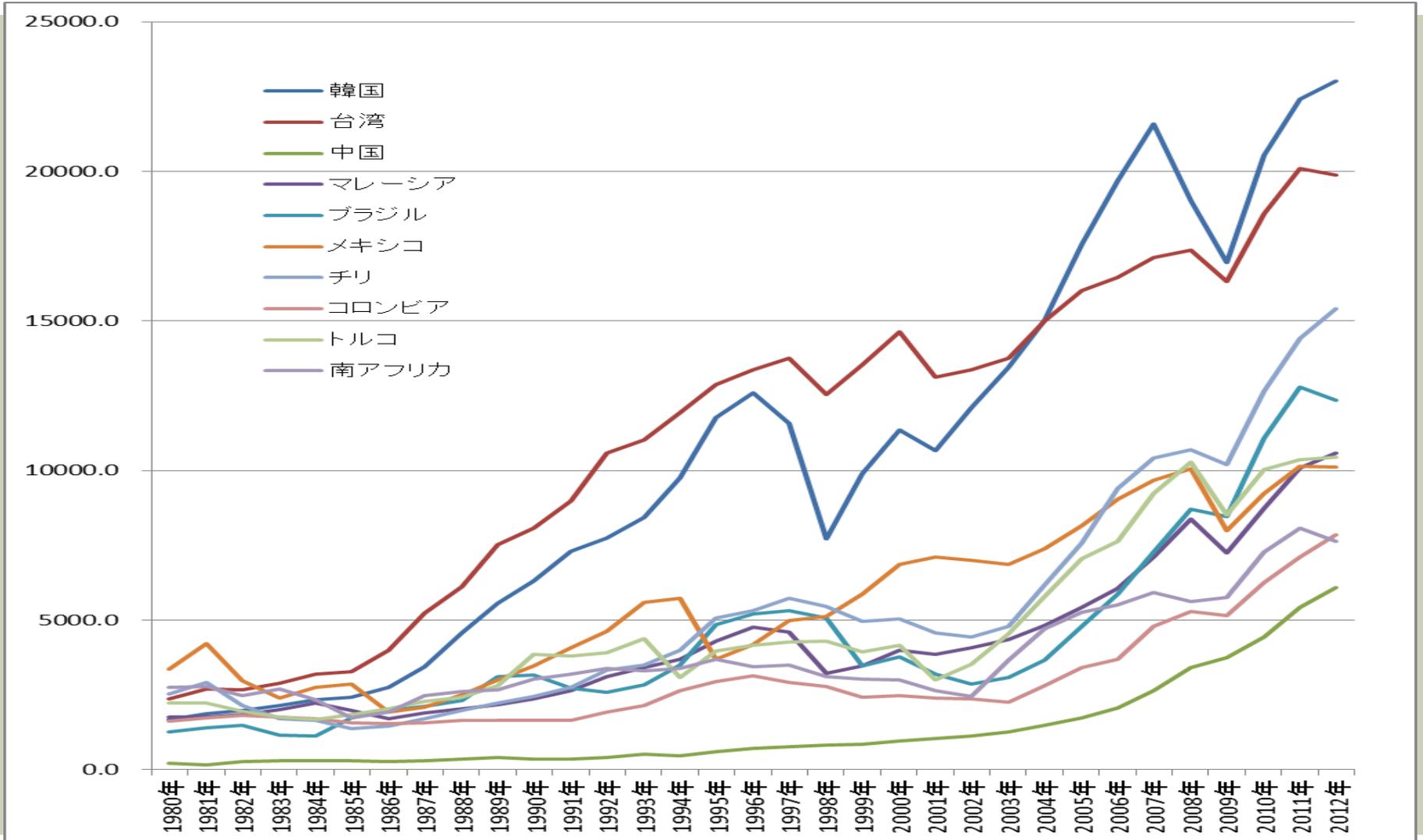
- 「中所得 (WB:996\$~12196\$)の罠」 (Middle Income Trap)
- *An East Asian Renaissance-Ideas for Economic Growth*, World Bank (2007)
- *China 2030: Building a Modern, Harmonious, and Creative High-Income Society*, World Bank (2012)
- *Asia 2050: Realizing the Asian Century*, ADB (2012)
- 「貧困の罠」から「中所得の罠」へ
 - 「収束」の不在：「貧困の罠」からは脱出できても「高所得国」に接近できない中南米、中東
 - 東アジアにも迫る？「中進国の罠」：
イノベーションの加速、金融リスクの管理、資源・環境制約、地域間所得格差・社会的求心性
 - 人口動態リスク（未富先老アジアの出現）

韓国は「中進国の罫」を振り切ったか？

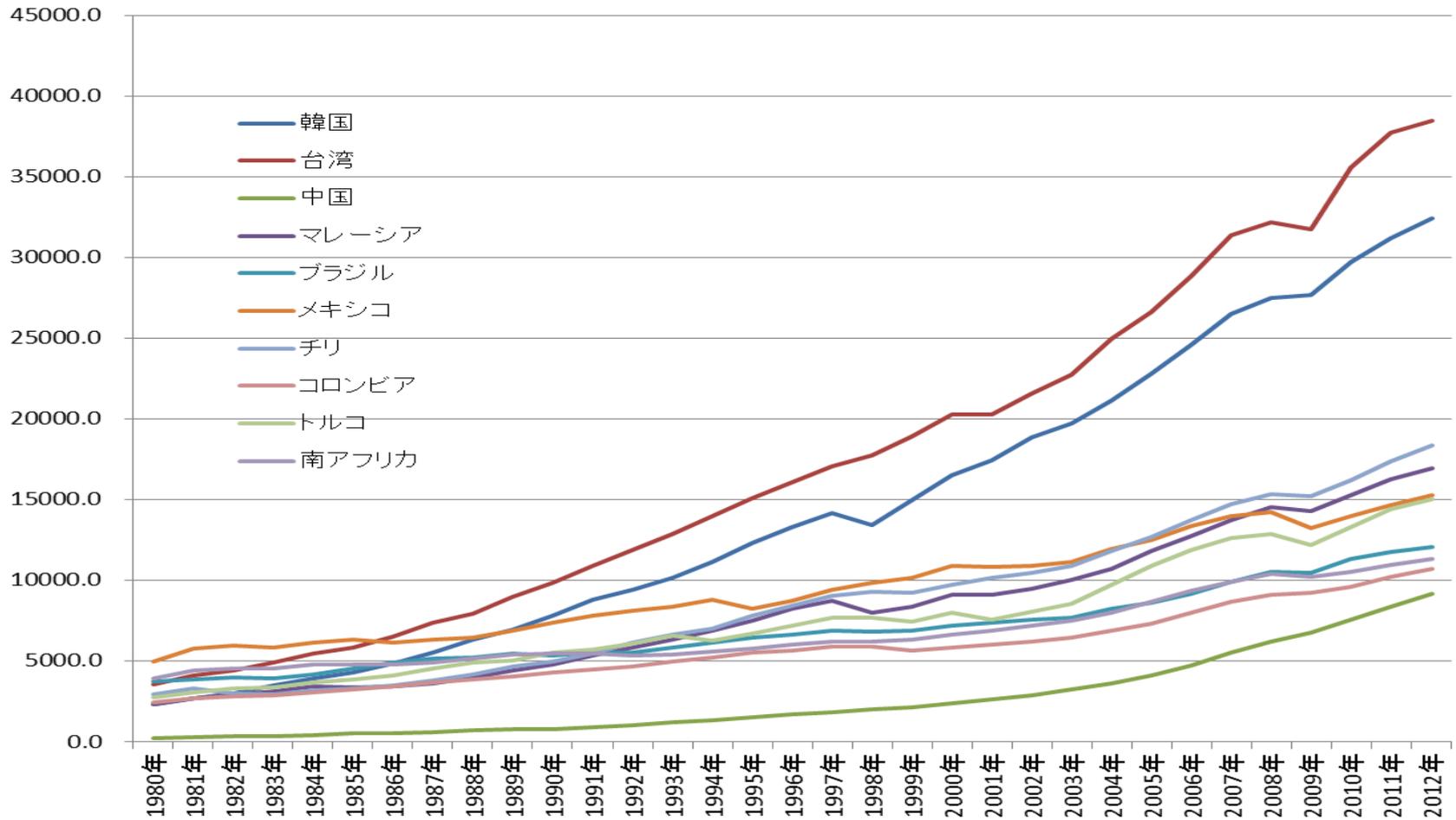
- 一人当たりGDP\$23000を達成（2012年推計）
- まだ低い不平等度：Gini指数0.31（チリ0.48、メキシコ0.41、中国0.40、トルコ0.38...）
- 低い政府債務残高：対GDP比34.2%
- 世界7大輸出国（2011年、米中独日仏蘭+）
- 国際競争力：WEF19位、WEF22位（2012年）
- 科学技術力：対GDP研究開発投資OECD4位（3.36%）、WIPO国際特許出願4位（米日独中+）、PISA5大教育国、ICT基盤...
- 健康：平均寿命80歳、世界最低水準の乳児死亡率

一人当たりGDP（名目、ドル）の推移

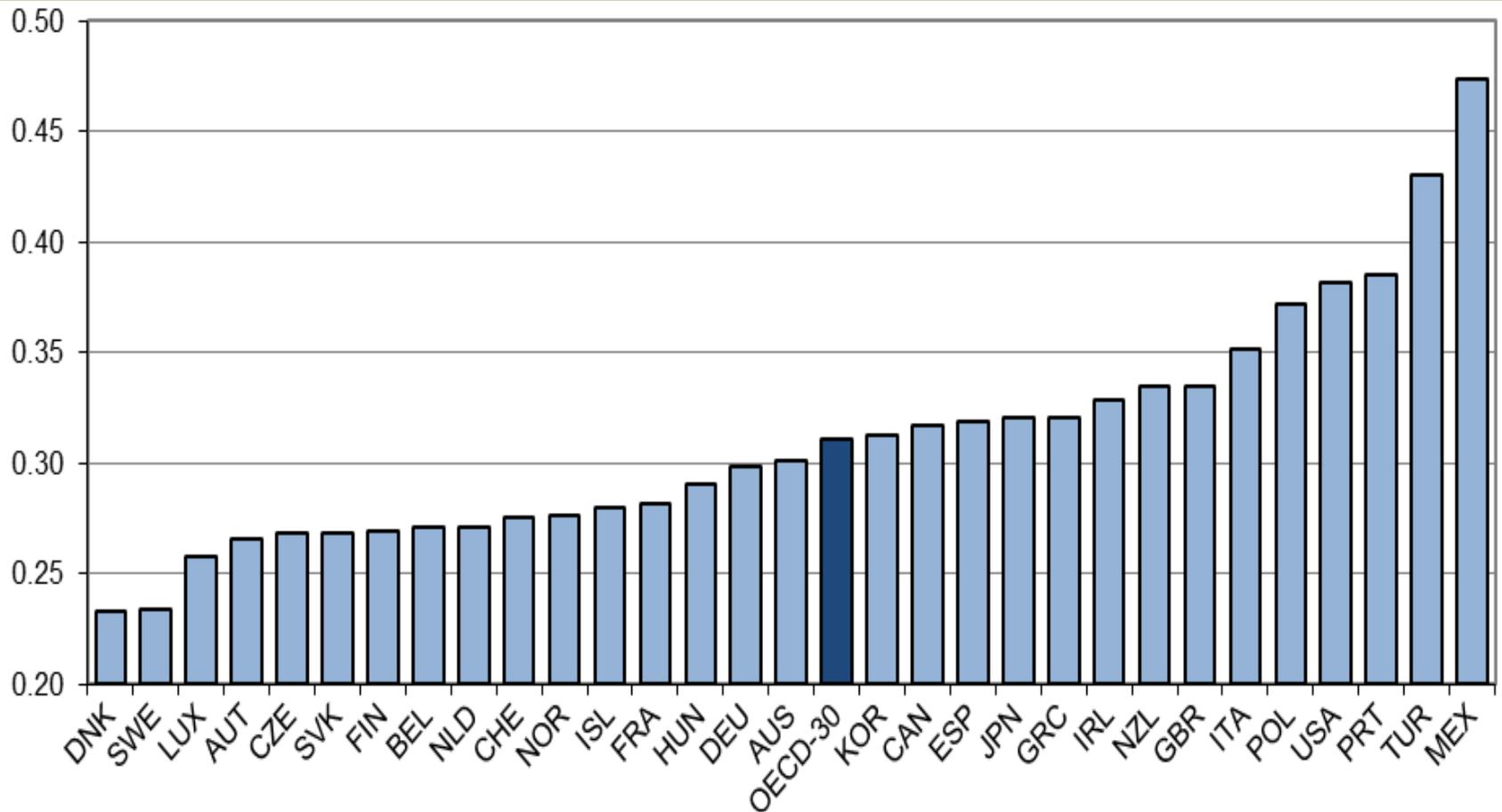
（一部は推計、WORLD ECONOMIC OUTLOOK）



一人当たりGDP(購買力平価、ドル)の推移

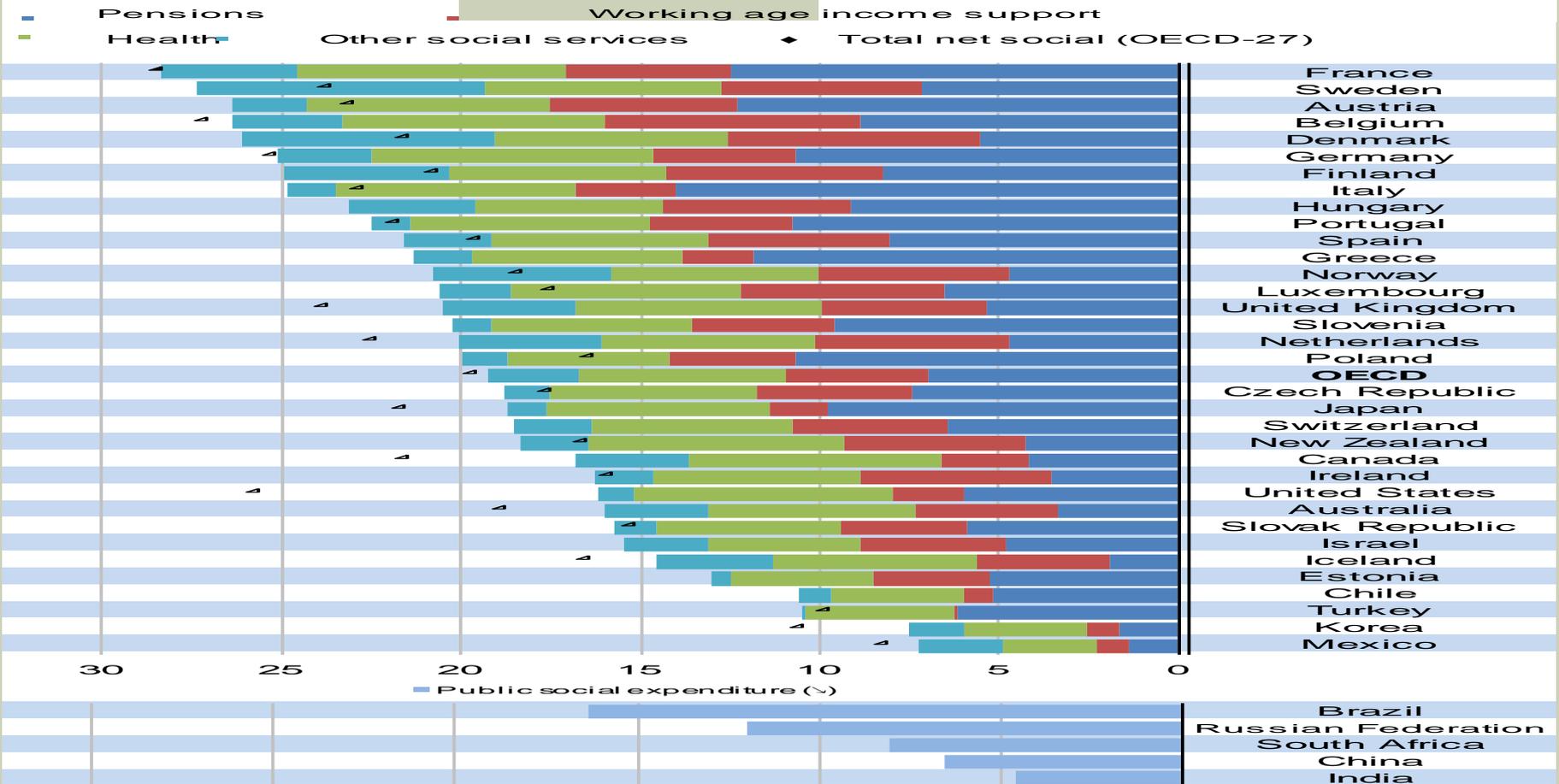


まだ低い不平等度（OECD統計、2008）



最も少ない社会政策支出(OECD統計)

Panel A. Public social spending by broad policy area and total net social spending, in 2007, in percentage of GDP



「韓国モデル」の評価(1)：構造主義・修正主義VS.新古典派(1)

- **構造主義・修正主義**：輸出ペシミズム、二重構造論による工業化、不均衡成長、規模の経済、キャッチアップ、政府主導の開発の必要性....
 - **韓国**：強い工業部門の成長牽引、二重構造、経済開発計画の策定・実施、（狭義の）産業政策、金融抑制（人為的低金利政策、信用割り当て....）、「財閥」肥大
 - **韓国**：初期条件（日米援助、冷戦国家、資源小国、日本による蓄積など）と制度（権威主義体制、経済企画院、輸出振興機関、セマウル運動とその組織、教育制度、官僚機構など）
（Ranis-Fei、Nurkse, Harshman, Wade, Amsden....）

韓国の開発経験(1)：構造主義・修正主義 VS.新古典派(2)

■ **新古典派**：途上国の成長も市場メカニズムによるべき
（輸出楽観主義、比較優位、小さな政府（市場友好的政府）、マクロ調整、金融自由化、均衡成長、技術導入、全要素生産性向上、人的資源投資の重要性...）

→ **韓国**：輸出主導型成長、中小企業の成長、多様な産業基盤、輸入自由化による物価安定、成長志向型構造調整、資本の自由化、外資導入など）

→ **韓国**：政策（貿易自由化、国際市場・技術へのアクセスと熟練形成、累積債務・通貨危機後の構造改革、産業調整など）

（Krueger, Westphal, Kim, Sakong, Young, Krugman....）

新興国の成長をどう考えるか？

- 初期条件(植民地経験、資源他)か、政策(貿易・投資開放)か、制度(Good governance)か？

Rodrik(2002), Achemoglu (2001), Sachs (2003), Collier and Dollar (2001)....

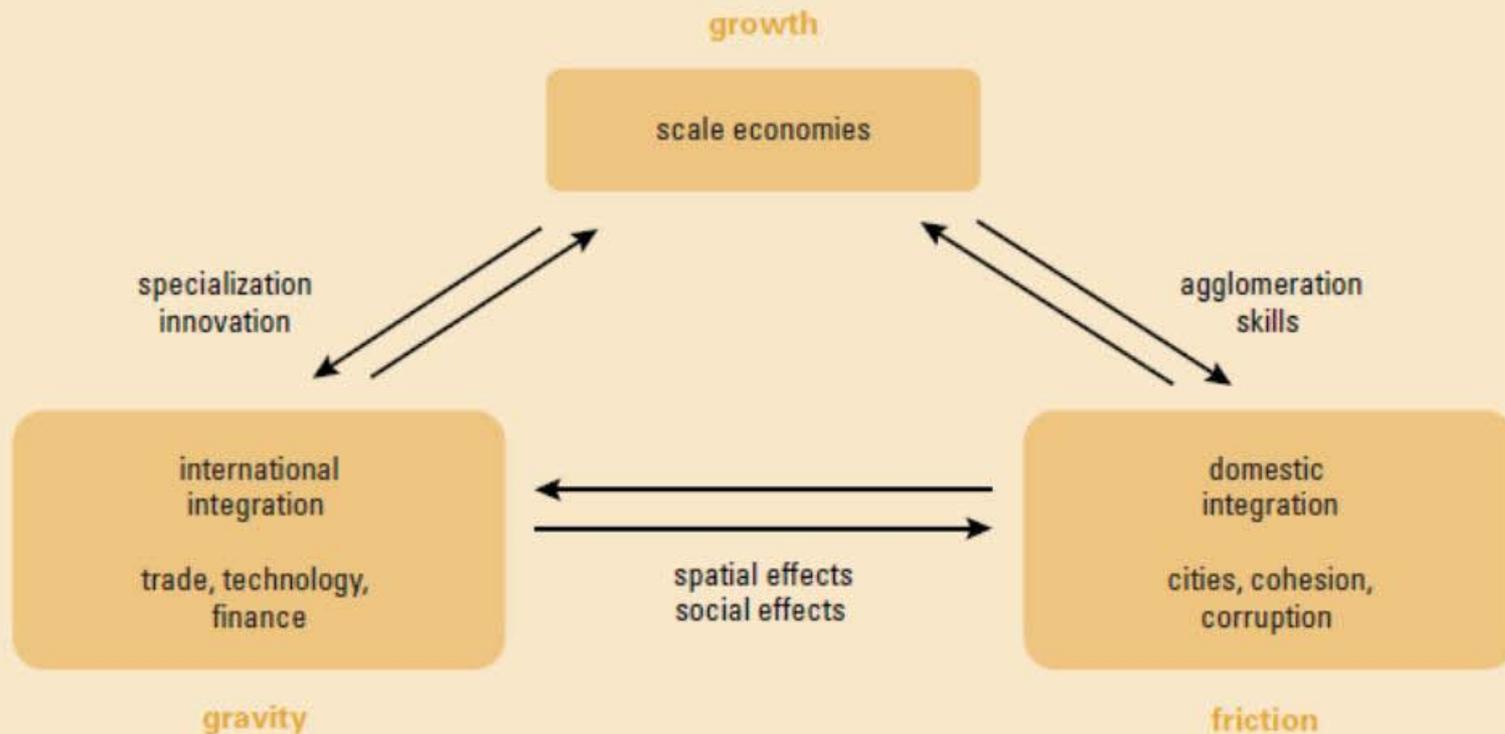
- 「中所得国」東アジアの三位一体成長構造：

貿易・技術・資本のグローバル化ー規模の経済ー都市化、汚職と社会的求心力の国内統合問題

⇒ 政策(“圧縮された自由化”)と制度(基層社会)の調和をどうとるか？

中所得国の成長構造

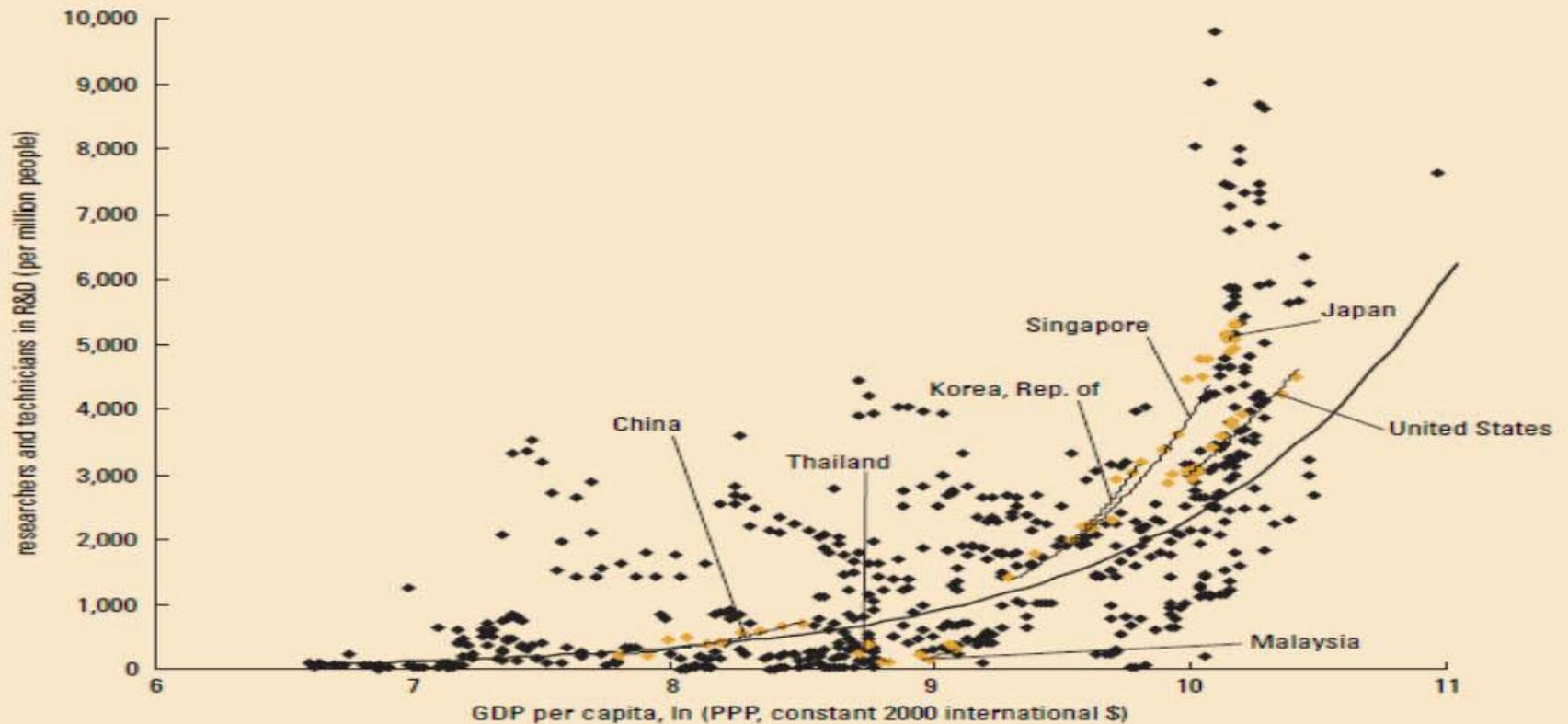
■ FIGURE 3 Economic Growth in Middle-Income Countries



Source: Compiled by the authors.

R&D投資の拡大

■ FIGURE 6 East Asia's Efforts in R&D Have Outpaced Those of the Rest of the World



Source: Compiled by the authors.

Note: The figure illustrates the situation from the early 1980s to the early to mid-2000s.

韓国の開発経験(2)：グローバル化(1)

■ 根深いグローバル化楽観論：

韓国→対北朝鮮経済開発競争、貿易立国の伝統（→FTA急速推進）、外国技術（特に日本）の積極的取り入れ、規模の経済追求、「財閥」の海外事業志向、移民の伝統

■ 構造調整の推進力：

韓国→1980~81 IMF stand-by credit: 緊縮政策、投資調整（重化学工業、建設業その他）、銀行民営化・金融自由化、ハイテク産業育成による「積極型調整」（PAP）

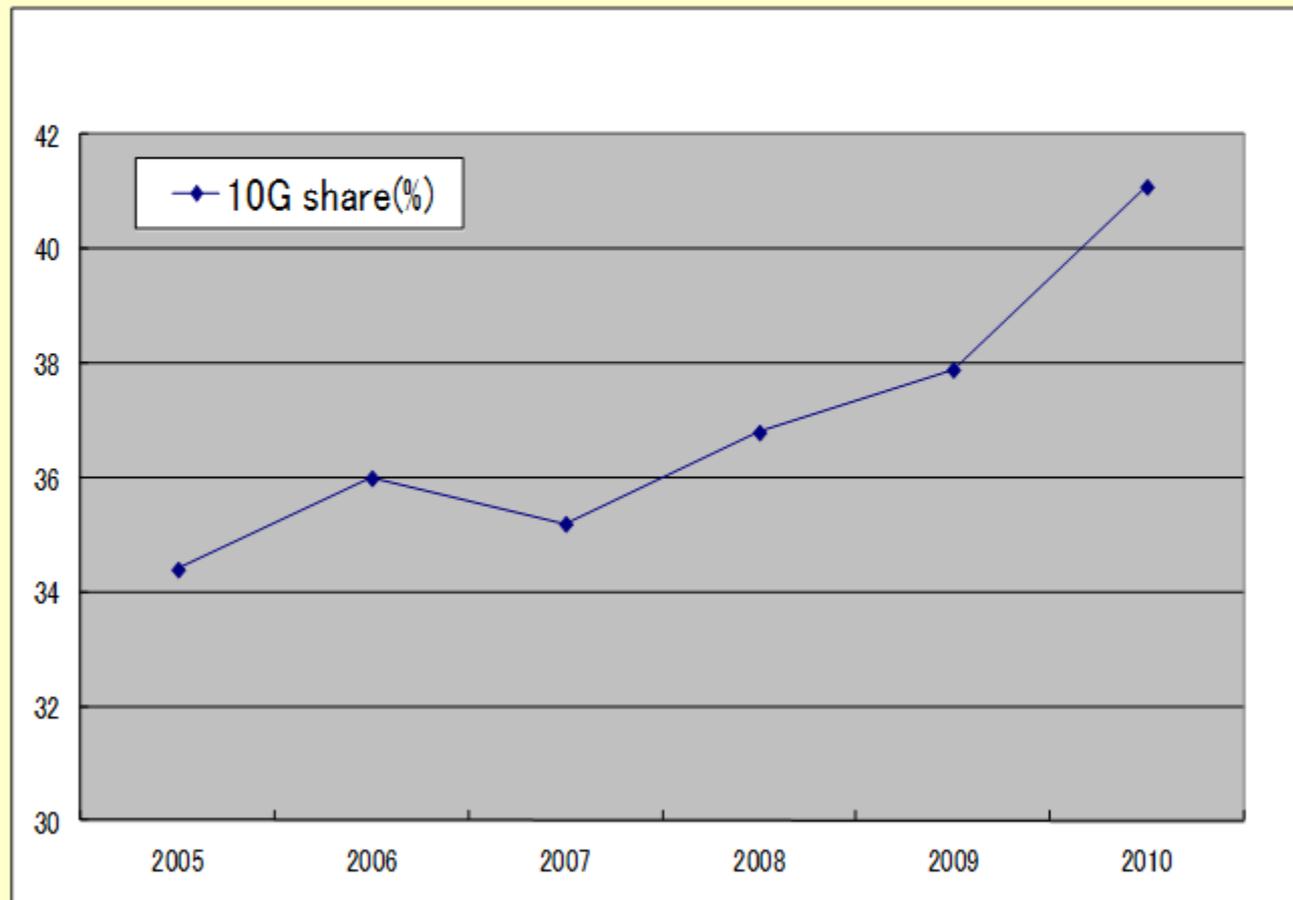
1997~2000 通貨危機改革（IMF融資）：資本自由化、変動相場制移行、「財閥」解体、企業統治改革、金融監督一元化

2008~ ドルスワップ、日中支援、FTA積極推進、「財閥」系大企業のグローバル化（新興国市場攻略、デザイン経営、顧客原理主義、グローバル人材登用、成果主義経営）

韓国の開発経験(2)：グローバル化(2)

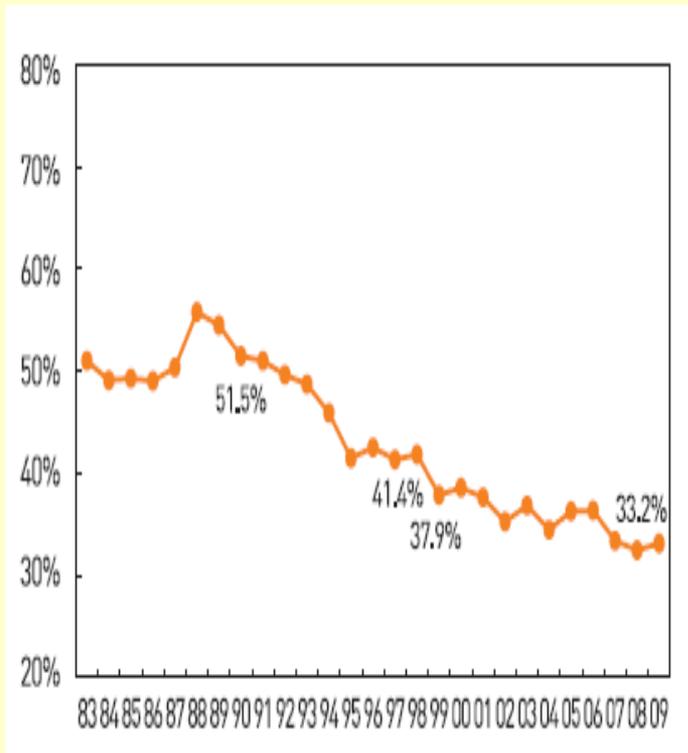
- 事大主義の不変とグローバル化悲観論の台頭：反米（親北）と反グローバルイズムの連動（反米韓FTA）、対日貿易赤字批判、「経済民主化」（反「財閥」運動）、大企業－中小企業格差、教育機会不平等感（英語教育）、李明博政権の国家資本主義回帰
- IMF改革以降の構造問題：輸出と内需の分断
 - 1) 潜在成長力の急低下と交易条件悪化
 - 2) 為替レートの弱含みによる物価不安、エネルギー効率の低迷
 - 3) 継続する内需不振（投資、消費）と家計負債問題の構造化：雇用不安、自営業不振、社会保障なき高齢化....
 - 4) 不動産懸念：住宅過剰投資、市況悪化、不良債権増大
 - 5) 国内市場の寡占化（「財閥」問題の再燃）

10大企業集団への集中加速 (製造業売上高)

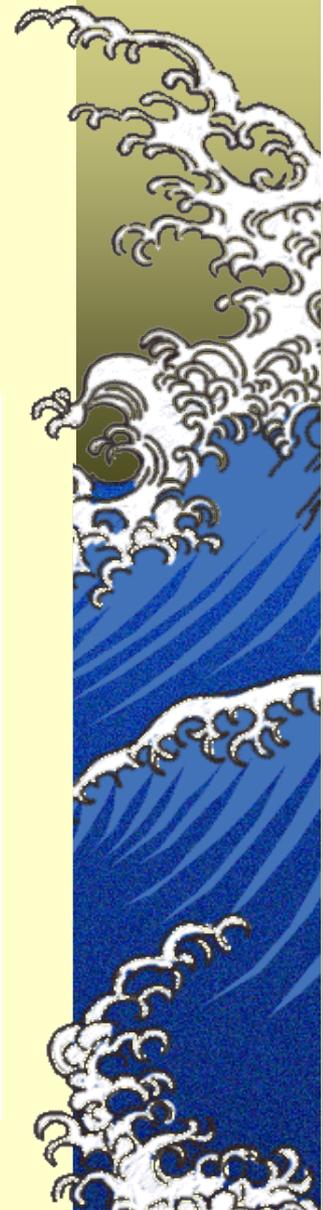
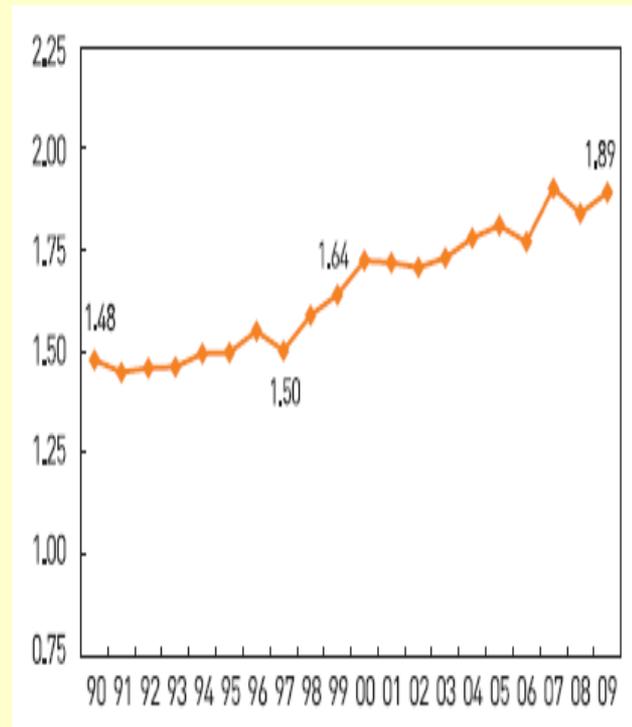


拡大する生産性・給与格差

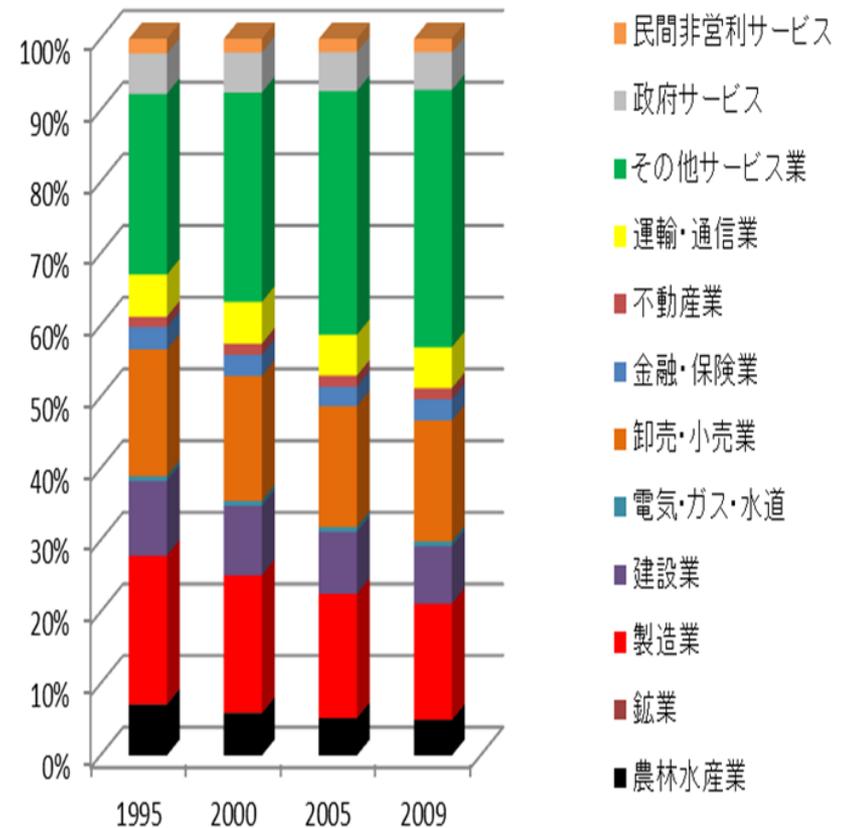
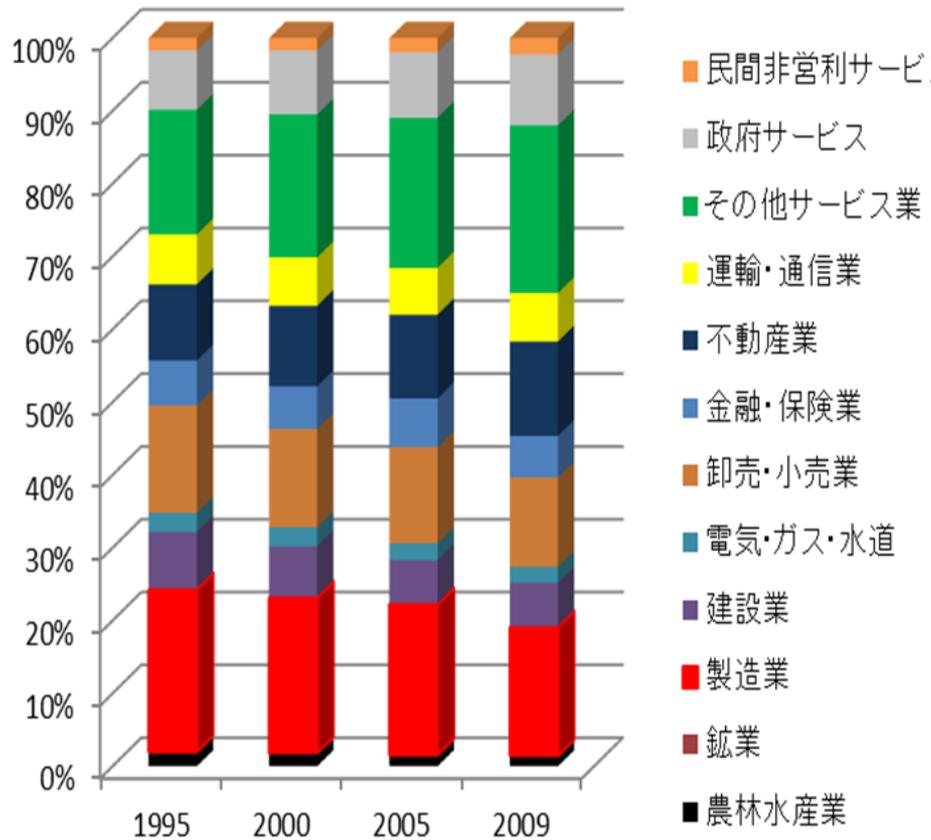
▲ 大企業/中小企業の
生産性格差



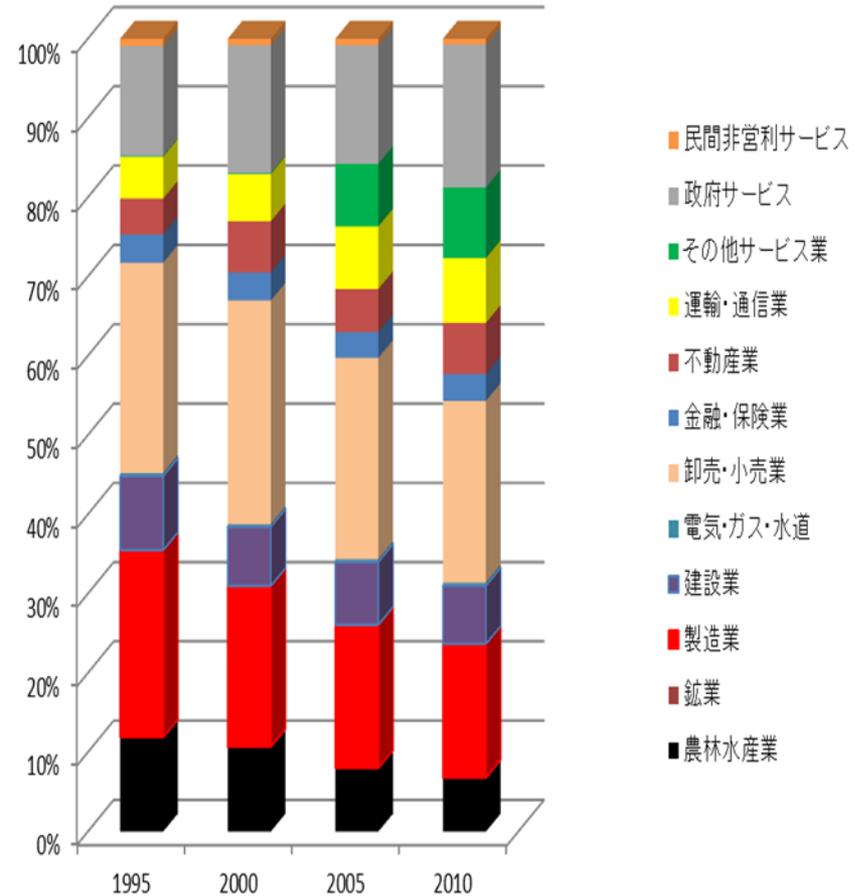
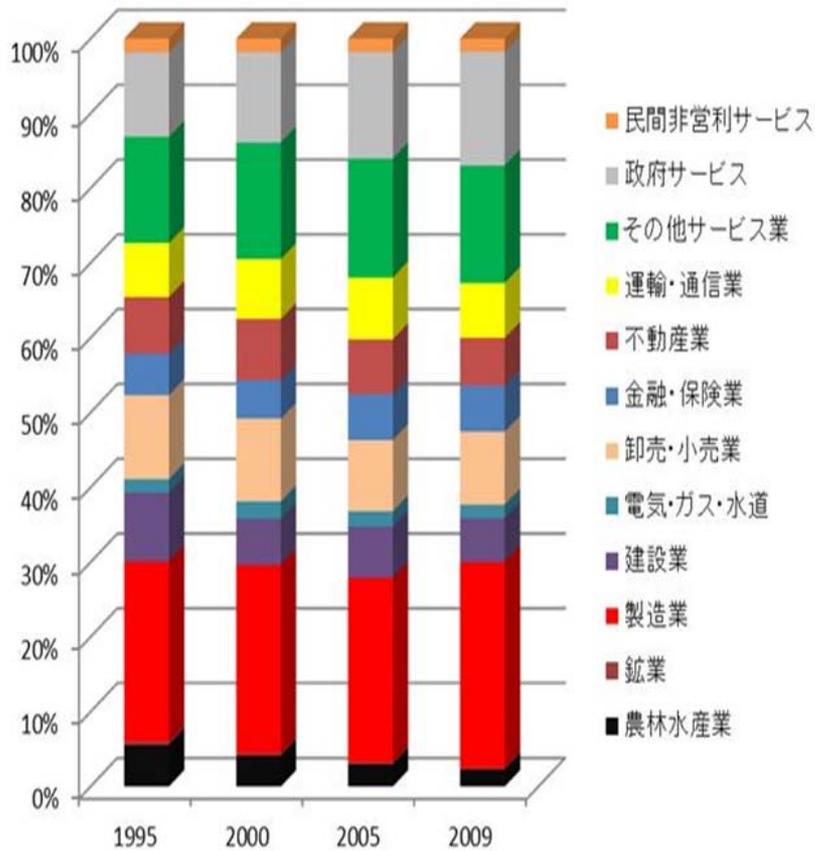
▲ 大企業/中小企業の
給与格差



付加価値比率と就業者比率（日本）

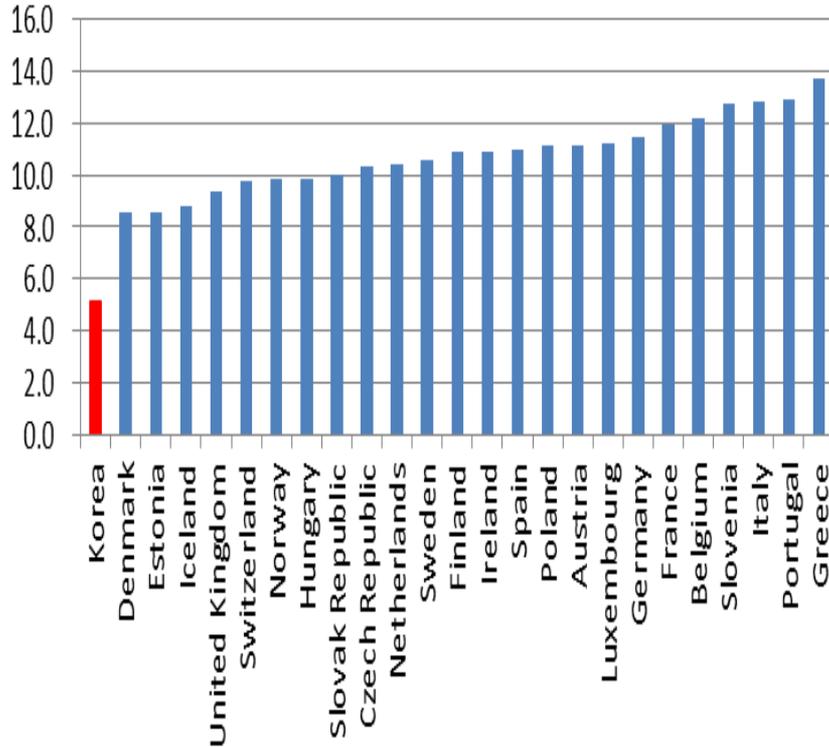


付加価値比率と就業者比率（韓国）

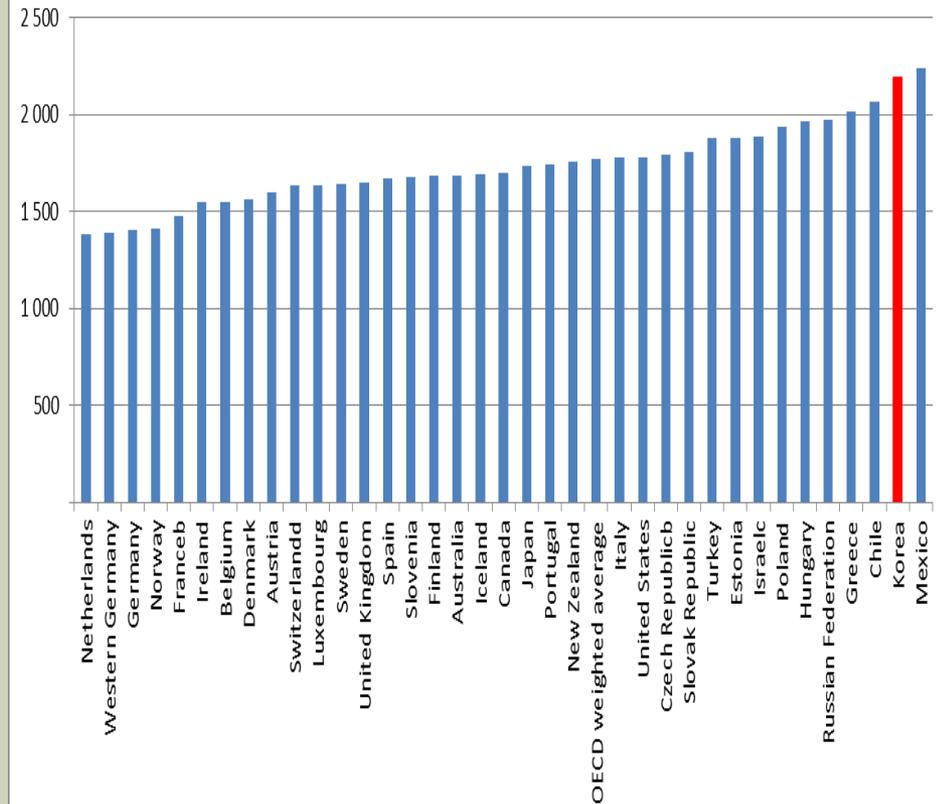


雇用不安と長時間労働（OECD統計）

Job tenure



2010

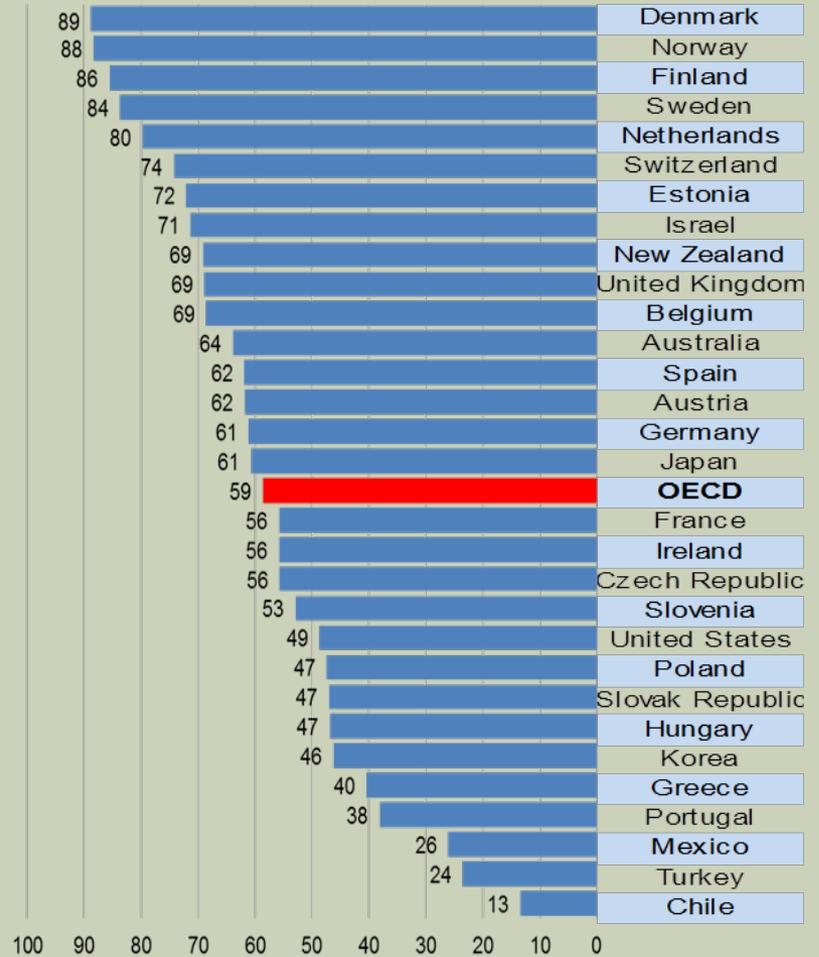


OECD 統計に見る韓国社会

社会的紐帯 (Social cohesion index)



Source: OECD Income-Distribution Database; see OECD (2008), *Growing Unequal?*, Tables 5.1 and 5.3.



韓国の「開発経験」一般化(1)

(1) 韓国の「開発経験」の何が一般化でき、役に立つのか？

- GATT体制下とWTO体制/EPA時代との違い（輸出振興策、産業政策、人的資源政策....）
- 経済インフラ重視：成長＝雇用が教育、保険をカバーした韓国の時代、体制（冷戦と開発独裁）
- 集中育成政策の負の遺産：「財閥」問題
- 人造りと「ベンチマーク」システム：官僚システム、人的資源の蓄積・ネットワーク化、情報共有システム
- 産業選択と教育システム、教育の再配分機能、社会の求心性維持と政策説明努力（例：主婦教室）
- 国際環境変化への対応力：移民、僑胞ネットワーク、優先順位と意志決定のシステム、シンクタンクと政策形成力、政策説明努力
- 後発の利益最大化：国家事業管理、国民総背番号、ICTインフラ

韓国の「開発経験」一般化(2)

(2) 韓国が日本から得たものは何か

- 開発は人造りであり、資金問題ではない：開発エリート、公務員意識、企業家精神、中間層育成、教育の機会平等
- 「産業報国」：成長の維持と家計の役割分担
- モノツクリの効用：近代大量工業生産の意味（技術に対する認識、適性技術概念、金融の役割、近代組織としての企業と専門家の役割、下請け企業取引....
- 経済支援の獲得能力：時間へのコミットメント、必要資源の動員・活用、成果のフィードバック、経済計画・プロジェクト検証とその記録
- 政府の役割は公共財提供：ハコもの主義、法律整備、マクロバランスの維持

真の先進国への挑戦課題

- 「経済民主化」要請への対応：成長-分配のメカニズム再構築、社会政策の強化、公正取引制度改革
- 内外需の好循環構築、為替変動対応、イノベーションの活性化
- 増分改革（≠不毛な「財閥」規制）：
輸出型中小企業育成、サービス化・ソフト化、
ハブ型から産業集積促進型のFTAへ
⇒ 日韓包括的経済連携の新しい意義

結論に代えて：グローバル化下の 経済発展再考

- 「中進国の罫」からの脱出：
グローバル化の肯定、学習能力の高さ、政策転換能力、制度構築力、企業家の能力
- 残された普遍的課題：
 - (1) 転換を阻む成功体験（輸出主導・政府主導型成長→新・国家資本主義？「財閥」の家産論理）
 - (2) 社会的求心力の弱さと社会政策形成合意の困難
 - (3) 市場のリスク負担能力強化（リスクマネー、社会的安全網、労働市場の柔軟性、実効性ある知財保護）とイノベーションの促進